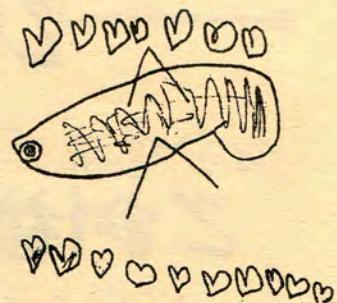


ひろば新聞

第6号 春号



NPO法人 Z訓 やよい福祉会

わいわい楽しいよ!

NPO法人ってなに?

特定の公益的・非営利活動を行う法人のこと。
社会のために利益を目的としない活動を行っている法人です。

やよい工房の

紹介です。



☆やよい工房ってどんなところ?

やよい工房は1999年に精神障がい者共同作業所として開所しました。2004年に法人認可を受け、2009年に就労継続支援B型事業、2012年に生活訓練事業に移行し、現在は多機能型事業所として運営をしています。

○就労継続支援B型事業では、焼き菓子の製造・販売、内職作業を中心に活動しています。そこで得られた売上や利益を利用者の方に工賃として還元しています。

○生活訓練事業では、食事作りや創作活動等のプログラムを取り入れています。

○両事業合同で餅つきや一泊旅行等の行事を月一回程度企画し、同じ作業や行事を通して支え合える仲間を作り、和気あいあいを合言葉に日々活動しています。

利用者さんの声「やよい工房を利用した感想」

Aさん「なかなか通えない日々が続いて皆といる時間も少なかった。また、これからは来れそうな時にはなりますが皆と共に時間を過ごせるようになりたいと思っています。」

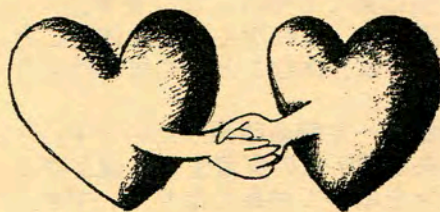
Bさん「日頃はほとんど家にいるので、工房へ外出したりするのが一番の楽しみです。工房でいろんな物を作ったりするので新しい発見があり、こんなものでこんなことができるんや、と毎日思いながら作っています。一日がゆっくりと工房では時間が過ぎるので、休憩しながら工房に来ています。」

Cさん「いろんな作業ができて飽きがこないです。工房はイベントがたくさんあるので日々充実していて楽しいです。」

★やよい工房が大切にしていること

利用者をはじめやよい工房に関わる全ての人たちの笑顔が絶えない事業所作りを大切にしています。

ボランティアさん
募集中!



やよい工房ではボランティアさんを募集しています。

- ・作業のお手伝い（箱折りなどの内職作業、お菓子作り）
- ・行事のお手伝い（外出時の引率、簡単な調理補助）
- ・販売のお手伝い（出店販売時の接客など）

興味を持って下さった方はお気軽にお問い合わせ下さい。
見学も随時受け付けています。

<お問い合わせ先>

電話：075-952-9567

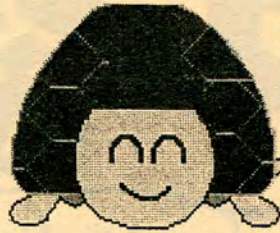
住所：長岡京市久貝2-2-11



ひろば新聞についてお問い合わせは長岡京市役所障がい福祉課へ

TEL：075-955-9549 FAX：075-952-0001 メール：syogaifukushi@city.nagaokakyo.kyoto.jp

社会福祉法人
乙訓福祉会の
紹介です。



社会福祉法人ってなに？

社会福祉事業を行うことを目的とする法人のこと。社会的に弱い立場にある障がい者や身寄りのない人などの支援を行う法人です。

社会福祉法人 乙訓福祉会
障害者地域活動センター

障害福祉サービス事業

乙訓の里

生活介護(身障者主対象)

乙訓の里では、身体に障がいのある方々が中心に利用されています。

主な活動

【作業】

紙漉・縫製・デザイン・さをり織・アクセサリー・木工などの製品を作成しています。身体に障がいがあっても道具を工夫して作業に取り組んでいます。

【機能維持訓練】

今使える身体機能を維持する為に個別メニューを作成して行っています。

【社会経験活動】

少人数に分かれて、色々な企画を計画→実施→振り返りを繰り返すことで、様々な体験を身につけていく事を目的としています。

○利用者の声

私は、乙訓の里に来て2年目になります。1年目は、体調面や、慣れなくて里を休むことがあったけど、今は、休むことなく里に行くことが出来ています。又、作業や活動も一生懸命頑張りたいです。そして、里に来る同年代の実習生さん達とコミュニケーションを取って仲良くなりたいたいです。



地域のみんななかで障害のある方々と共に

障のい福祉サービス事業

乙訓楽苑

生活介護(知的障害者主対象)

乙訓楽苑では、知的に障がいのある方々が中心に利用されています。

主な活動

【グループ別活動】

午前中は健康づくりや心身ともにリフレッシュできるように、ストレッチやウォーキングを取り組んでいます。また、外部講師を招いて3B体操・ラフターヨガ・ミュージックケア・クラブ活動(太鼓、カラオケ、陶芸、絵画)を行っています。

◎小グループ外出(2名以上で設定)や一泊旅行も実施しています。

【作業活動】

作業は紙粘土額縁・マグネット製作、木工、さをり織、EMボカシ肥料、ビーズ&アクセサリー製作、草木染め、アルミ缶プレスなどを週5回午後実施しています。

製作した製品は、地域で開催されるバザー等に参加して販売、地域との交流にもつながっています。

○利用者の声

ぼくは楽苑に来て必ずしたいことがあります。それは大好きな人(職員)を探して、お話することです。旅行や甲子園に「一緒に行っている？」とたずねて、「いいですよ。行きましょうね」って言ってもらいます。そして、担当職員に聞くんです。「〇〇さん、何て言った？」ってね。「一緒に行きましょうねって、おっしゃってましたよ！」と担当が言うと「なっ！！」と言い、ニヤッとしちゃうんです。今年はいんどいことも経験したけど、今は頑張って毎日、元気に楽苑に通っています。「〇〇さんとバスに乗って、旅行に行きたいと思いたいですっ」

ゆっくりかつ確実な歩みとして亀を図案化。デザインはキャンパスの畑中由美さんです。



ボランティアさん
募集中!

乙訓の里・乙訓楽苑ではボランティアを募集しています。作業のお手伝いや食事介助のお手伝いなど利用者と一緒にやる内容や作業の下準備など直接利用者と一緒にやる内容もありませんので、ご興味のある方は、お気軽にご連絡下さい。

電話：075-952-0888

住所：長岡京市勝竜寺長黒 1-3

ひるばしんぶん

おとくに
民話

特別号

柳谷カエル



作：海印寺 幸平

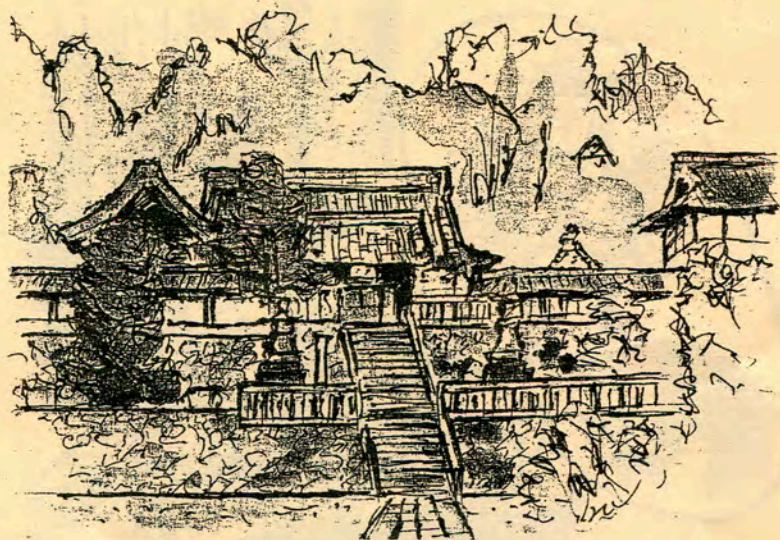
(長岡京市視覚障害者協会)

画：稲葉 薫

(乙訓手話サークルでんでん虫)

里の竹林には春の柔らかな陽射しが降り注ぎ、木漏れ日を受けて若竹が生き活きとなるころ、田んぼには早苗が薄緑色の絨毯となり夜には小川に源氏ボタルが星空のようにきらめいておりました。いっぽう里山には時おり山桃の木がはえて、熟した真っ赤な実が下に落ちており、そこには鳥や虫が群がっていました。この西山奥深くにそれはそれは立派な観音様をおまつりしているお寺がありました。この靈験あらたな観音様は十一面千手千眼観世音菩薩で眼の病を治すといわれ、里の人はもちろん遠くは四国、九州からも泊まりがけでお参りにくるほどのにぎわいを見せておりました。

・ 柳谷・揚谷寺



そんなお参りの人の中に太一という少年がおりました。太一は山崎街道(旧西国街道の一部)の六つの宿の一つである山崎宿というところに住んでおりました。そこは大きな河のそばで大雨が降ると周り一面が水浸しとなってしまう、天王山から見下ろすとまるで鏡のようにキラキラ光って見えたところから鏡田とよばれました。太一は赤ん坊の頃、それはそれは高い熱が1週間以上も続いたそうで、それがもとでご飯粒や飛び回る小鳥が見えなくなり、言ってみれば、いつも深い霧の中で暮らしているようなものでした。あまりにも小さい頃からのことで周りの友達もみんな自分と一緒に見えているとばかり思っておりましたが、ある日夜空を見上げて星の数を数えると、みんなの見つけた数と自分が数えた数が違っておりました。そこで初めて自分がみんなと見え方が違うことに気がついたのでした。でもみんなと遊んだりお手伝いをするときはちょっと不自由でしたが、心の中では不幸とは思わず楽しい日々を過ごしておりました。それは優しいお母さんや、やさしいお友達と一緒にいてくれたおかげでしょうね。でも日が経つにつれ太一は何とか少しでも見えるようになりたいと願うようになり、西に東にと観音様へお参りを始めました。

そんなある日、この西山にある観音様の噂を聞き、早速山崎街道を通りやってきたのでした。

街道から参道に入ると路沿いには1町ごとに誰がまつたのかわかりませんが、かわいらしいお地蔵さんが見守っており、そのお地蔵さんはそれぞれ表情も違い、手作りの赤いよだれかけにチョコンと小さい帽子を着せてもらっておりました。

太一は汗を拭き拭き曲がりくねった山道を登り、石段をあがりやっとお寺にたどりついたのでした。そこで本堂に入り念願の十一面千手千眼観世音菩薩様に「どうぞ大事な大事なお米の一粒が見えるようになりますよう」と手を合わせお願いをするのでした。ちょうどこの日は17日のご命日にあたり、幸運にもご本尊がご開帳されており直接願いを言う事ができたので、たいそう喜びました。お参りを終えて帰りの山道で一服をしようと、竹林の木漏れ日の中で腰をおろし休むうち、山道を歩き疲れのためか知らず知らずのうちにウトウトしてしまいました。

・柳谷へ向う 太一



そこで太一は不思議な夢をみたのでした。先程お参りした観音様が黄金色の光につつまれている脇から緑色のカエルがピョコンピョコンと出てきて話し始めたのです。

「太一さん、太一さん、私のこの眼を差し上げましょうか」

「その代わりに、大事な大事なお米の粒が見えるようになりますましたら、どうぞこの大地にお米をたくさんたくさん作ってくださいね」

「沢山の田んぼが出来ると、そこには沢山のカエルが暮らし、人もみんなニコニコ笑いみんなが歌い出すでしょう」

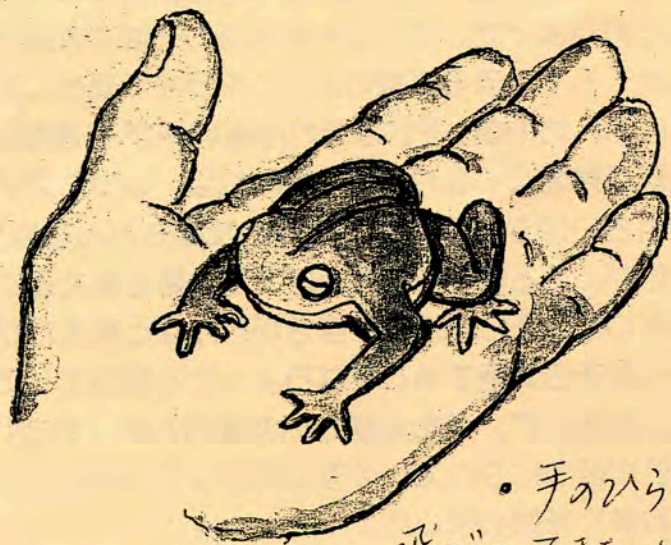
「そしてカエルもお百姓さんもお里もみんなみんな豊かになってゆくことでしょう」



・居眠りのとき 観音様の現われる

「さあ、それでは太一さんお約束しましたよ」そう言い終わると緑のカエルも黄金色の観音様も消え同時に太一は夢からさめたのでした。ふと周りを見回すと足元に一匹の緑のカエルがおりました。そこでそっと手を差し出してみるとカエルは逃げず、じっとしており動こうとしません。

そのまましばらくするとそのカエルはチョコンと手のひらに飛び乗ってきたのでした。よく見るとそのカエルは片方の眼をつぶっているのに気づきました。そのとき太一は自分の眼がよく見えるのに気がついたのです。



・手のひらに
飛びのってきたカエル

「あの夢は本当だったのだ」そうつぶやきながらカエルをもとの場所にもどすと、あわてて沢におり水の流れて顔を洗って見たところそれはそれは見違える世界が開けており、水草の一本一本やそこに留まっている黄色や赤など色とりどりのテントウ虫までがはっきり見えるのでした。もう太一の眼の前は、すっかり霧がはれておりました。ほかに目をやると不思議や不思議、その沢にいるカエルはみんな片方の眼をつぶっているのでした。

太一は急いで山道を下りながら、道端のお地藏様にお礼をこめて、持っていた手ぬぐいを首に巻いてあげ、よく見えるようになった眼で里のきれいな景色を見ながら、そして西山の方から聞こえる鐘の音を聞き夕日が名残惜しそうに去ってゆくのと競うように街道を急いだのでした。

家に戻るとお母さんが眼を細めニコニコ笑いながら炉端に座っており、炉端の鍋には美味しそうに淡竹とエンドウ豆がグズグズと煮えておりました。そしてお母さんの顔の右頬にある小さなホクロや頭には白髪の本一本本までが数えることができるくらいハッキリと見えるのでした。

そこで太一はお母さんに西山で見た不思議な夢の話の一部始終をしたところ、早速お母さんは仏壇の観音様に深々と頭をさげ手を合わせ深く感謝をするのでした。そしてお母さんは太一に言いました。

「きっとそのカエルは観音様のおつかいだと思いますよ」

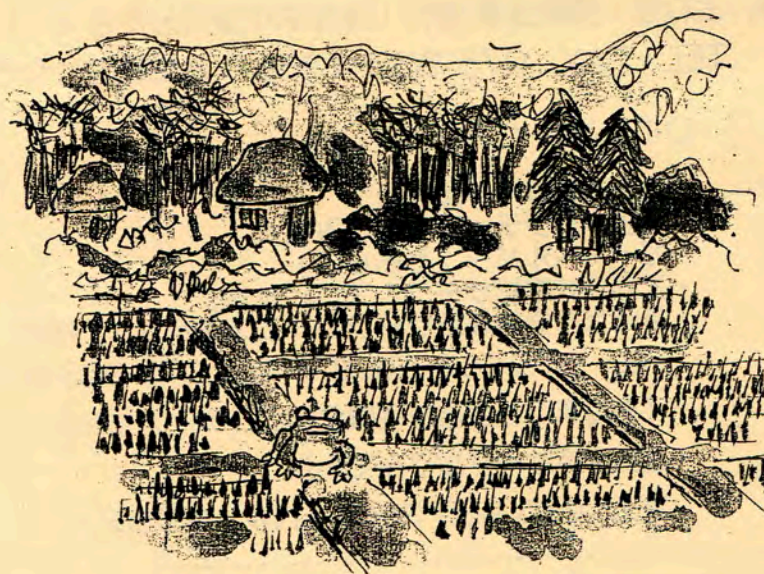
「観音様に感謝をこめ、カエルさんとの約束をはたすよう、明日から一緒に働きましょうね」

そう聞くと太一はうなずくのでした。明るく日から二人は鏡田に出て、膝まで入り汗を流しながら田をすき早苗を植え一生懸命働きました。そして天王山から見下ろすと鏡田は緑の絨毯を敷き詰めたようになり、そこにはカエルの声が響き渡りそれはそれは豊かな実りの大地となり



• 家で母に話す太一

ました。それからというもの太一は一粒一粒のお米とお母さんを大事にしながらもちろん田んぼのカエルにも感謝をして楽しく幸せに過ごしました。いまでもこの西山の沢には片方の眼を閉じた緑色のカエルが住んでいると言われ、これは太一のように眼の悪い人達に自らの眼を差し出した名残だと言われているそうです。また別のいい伝えによるとこのお寺の開山後、弘法大師がこの寺に参詣した時、堂傍のたまり水で猿の親が眼の病にかかった子猿の眼を一生懸命洗っていたそうです。



• 田植え —

それから毎日雨の日も風の日も眼を洗いにかよい続け、17日目には子猿の眼がパッチリ開き病が治ったのでした。それから猿の親子は喜んで山奥へと帰って行ったといわれております。この始終を見ていた弘法大師はその不思議な水を眼病に悩む人々の為に靈験あらたかな靈水にしようと、日夜加持祈禱を施し独鈷（古代インドの武器、現在は仏具）で掘ったといわれ、このお寺の井戸から湧き出る水は鈷水と呼ばれ今でも17日の縁日には行列が絶えることはありません。（おわり）



視覚障がいという障がいに題材を求めて、地域の貴重な社会資源の発掘と私たちが暮らしている地域の再認識につなげていただければと想いを込め物語を作ってみました。ご紹介したカエルの物語は、地域の高齢者から語り継がれている話から、弘法大師の物語が、お寺で語り継がれている話とと考えました。

こんな素晴らしい話が語り継がれている故郷を大事にしてゆきたいものです。

長岡京市視覚障害者協会 会長 山田 猛

おとくに民話について

この民話は、平成25年12月7日に実施した「障がい者児の人権を考える市民のひろば」で長岡京市視覚障害者協会の後藤悦子さんが朗読したもので、乙訓地域に伝わる民話をもとに、長岡京市視覚障害者協会会長の山田猛さん（海印寺幸平さん）が作ったものです。

今回、ひろば当日に好評だった朗読を文章にして、より多くの人に読んでいただきたいと思います。このひろばしんぶんに掲載しました。この話を読んで地域の民話に興味を持っていただき、また視覚障がいにご理解をいただければ幸いです。

今まで紹介・お誘いした団体の連絡先

○長岡京市身体障がい者団体連合会

- ・長岡京市視覚障害者協会
- ・長岡京市難聴者協会
- ・長岡京市ろうあ協会
- ・長岡京市肢体障がい者協会

お問い合わせ：長障連事務所（長岡京市役所分庁舎3 1階）
TEL・FAX 075-955-4068 へお気軽にどうぞ♪

○長岡京市社会福祉協議会

- ・長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」
TEL：075-963-5508
FAX：075-963-5509
- ・地域福祉センターきりしま苑
TEL：075-955-5601
FAX：075-952-2597

○ボランティア団体

- ・乙訓点訳サークル
- ・朗読ボランティア「なごみ会」
- ・ガイドヘルパー「ともしび」
- ・乙訓要約筆記サークル「ラビット」
- ・長岡京市要約筆記サークル「エスペランサ（希望）」
TEL：075-963-5508 FAX：075-963-5509
（長岡京市社会福祉協議会ボランティアセンター）
- ・乙訓手話サークルでんでん虫
TEL：075-935-3667（代表 桜田吉昭）

ひろば新聞についてお問い合わせは長岡京市役所障がい福祉課へ

TEL：075-955-9549 FAX：075-952-0001 メール：syogaifukushi@city.nagaokakyo.kyoto.jp